

第3学年総合カリキュラム

3年総合学習「食を考える」と三年間のまとめ

1. 総合学習でめざしたこと

第1学年で総合学習を始めるにあたり、そのねらいとしてかかげたことは、次の二つである。

- 1) 自分たちが生きている社会や世界に関心を持ち、自分たち自身で課題を見つけ、それを調べたり話し合ったりして、さらに社会に対して自分たちができることを考える。
- 2) 学年全体で共通の課題に取り組むことで、学年としてのまとめや学年内での交流を深めるとともに、仲間と協同して学習することの楽しさや大切さを知る。

最終学年である第3学年の総合学習は、これまでの二年間の実践のまとめでもある。そこで、上記の二つのねらいを軸にしながら、第1学年と第2学年での実践の成果や課題を見直し、今年度の総合学習を計画した。これは同時に、この三年間の総合学習でめざしたことを改めて整理し確認する作業でもあった。

総合学習でめざしたことを整理すると、次のようになる。

- ① 自分たちが暮らす社会について、自分たち自身で課題を見つける。
- ② 社会についての課題に取り組んでいることをふまえ、様々な方法で調べたり、自分たちにできることを実際に活動したりする。
- ③ 社会で働く人たちと関わりを持つ上での必要な手続き、マナーなどを、実際の調査活動や社会活動を通じて学習し、自分たちの生活する社会を広げる。
- ④ グループによる協同学習の意義を理解し、仲間と協力しながら楽しく活動する。
- ⑤ 発表の場では、自分のグループの調べた内容を適切に伝える工夫をするとともに、各グループが調べたり活動したりして得た内容を共有できる喜びを体験する。
- ⑥ 課題決めから課題にむけての取り組み、まとめまでを一連の学習としてとらえ、自分たちで計画を立て、見通しを持って活動する。
- ⑦ グループ内や他のグループとの比較の中で、自分自身の学習活動を見直して自己評価や相互評価を行い、今後の自分にプラスの材料とする前向きな意識をもつ。

2. 第3学年の大テーマ「食を考える」の設定について

(1) 第1学年での課題決め

第1学年で課題を決めたときは、まず最初に、UNDP（国連開発計画）の親善大使でもある女優の紺野美沙子さんの講演「自分を見つめて世界を見つめる」を聞いた。その後で、個々

の生徒たちが考えたものをもとに、評議員（＝総合学習の実行委員として活動）がいくつかの課題を考え、次にまたそれらをクラスに持ち帰って話し合った。そして、各クラスの意見を持ち寄って評議員たちが再度検討して決定したのが、大テーマ「世界の人々」であった。この大テーマの下に小テーマ「戦争(テロ)」「世界の伝統文化、言語、宗教、流行など」「世界の国々の良いところ」「世界から見た日本」も決められた。

(2) 第2学年での課題決め

第2学年では、まず教師の側から「社会の役に立つこと、社会のためにできること」という大テーマを提示した。というのも、総合学習二年次ということを意識して、社会に対して自分たちができることを考えるだけでなく、自分たちができることを「行動に移す、実際に活動してみる」ことに重点をおいたからである。教師側から提案したこの大テーマを、次に総合学習実行委員の中で話し合い、この大テーマの中でどんなことができるか、どんなことをしたいかの案を考えた。その後、学年アンケートやクラスでの話し合い、実行委員会での検討を繰り返して決定したのが、小テーマ「フリーマーケット」「幼稚園での子どもの世話」「ボランティア（募金、放置自転車、ゴミ拾い、老人ホーム、NGO）」であった。

(3) 第3学年での大テーマ設定と課題決め

当初の計画では、第3学年では大テーマ決めから生徒たち自身の手にはゆだねようと考えていた。しかし実際には、まず教師側が「食を考える」という大テーマを設定し、その大テーマから先を生徒たちに考えさせることにした。その理由として、この学年の生徒たちは食べる、作ることが非常に好きだということがわかったこと（特に第2学年での林間学校での飯盒炊飯での活動ぶりはすばらしかった）、7月に校外学習として飯盒炊飯*を計画したが、その校外学習を総合学習と結びつける必要があったこと、飯盒炊飯の中で取り組んだゴミなどの環境問題も含め、一年次、二年次の総合学習で取り組んできたことが「食」というキーワードでならうまくまとめられると考えたこと、などがあげられる。資料1は、「食を考える」という大テーマを生徒たちに提示し、そこからイメージされるものを自由に記入してもらったものの一部である。

その次に行ったことが、ビデオ視聴である。ビデオの内容は、NHK「世紀を越えて」の中の「一頭の牛が食卓を変えた」（1999年放映）とNHK「63億年の地図」の中の「寿命2004年のいのちの旅（飢餓と肥満）」（2004年放映）の2つとした。このビデオ視聴を課題決めの過程に入れ込むことで、自分たちの身の回りの「食」が世界の様々なことに関係していることに気付かせ、視野をより広げたり取り組む内容を掘り下げたりすることをねらったのである。その後決定した小テーマや各グループごとに取り組む内容（p.132の表2を参照）を見ても、これらのビデオの内容が反映されているのがわかる。なお、資料2はビデオ視聴後の生徒の感想の一部である。

これらのことをふまえ、立候補した実行委員（10人）が中心になり、3つの小テーマ「食文化」「現代人の食」「食問題」を決め、その後グループごとに取り組む内容の検討に入った。

(実行委員が検討した小テーマの具体的な内容については、資料3を参照。)

* 7月の校外学習としての飯盒炊飯については、p.139~142を参照。

資料1 「食を考える」からイメージをふくらませよう

2003年度 第3学年 総合学習

2003.12.16 (火)

＜テーマのイメージをふくらませよう＞

3年生のみんなにとって、久しぶりの総合学習です。7月に行った飯盒炊飯(校外学習)以来ですから、約5ヶ月ぶりとなります。

総合学習でとても重要なのが、「テーマ」をどうするかです。1年生では「世界の文化」、2年生では「社会の役に立つこと、社会のためにできること」というテーマで取り組んできました。そして、今年度は総合学習最後の年であり、まとめの年でもあります。これまでの総合学習のテーマをふまえ、「食を考える」という大テーマを設定しました。

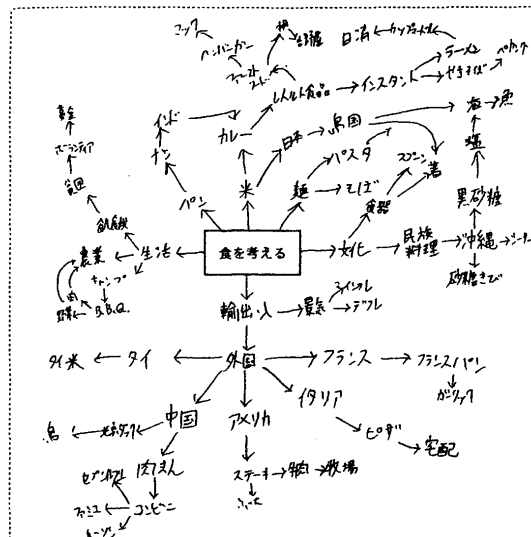
「食」というのは、生きる上でのもことになるものです。世界全体に視野を広げれば、様々な文化を反映した料理がありますし、現在進行形でいる新しい料理や食べ物が生み出されてもいます。また、食料が十分足りている人たちがいる一方で、様々な理由から食糧不足に悩んでいる人たちもいます。少し考えただけでも、「食」に関する社会的な多くの問題や課題があり、その問題に対して、私たち自身が何か関わること、できることを考えることは、みんなが積み重ねてきた総合学習のまとめのテーマとしてふさわしいといえるでしょう。

そこで、今日は、まず「食を考える」という大テーマからみんながイメージすること、を、どんどん出してもらいたいと思います。そして、さらにその中から、自分が興味のあること、自分たちで取り組んでみたいことなどのアイディアを出してください。(ただし、期間があと3ヶ月足らずなので、残念ですが栽培はできません。)

みんなが書いてくれたものを参考にして、最後の総合学習のテーマを具体的に決めていく予定です。そして、その作業を含め、1~3月の総合学習を引っ張ってやっていく実行委員を募集したいと思います。実行委員を希望する人は、下に記入をお願いします。

総合学習の実行委員を	希望する	希望しない
希望する理由...	最後の総合学習を自分の手で いいものにしたいから!! 「食」については自主研での経験もある!	

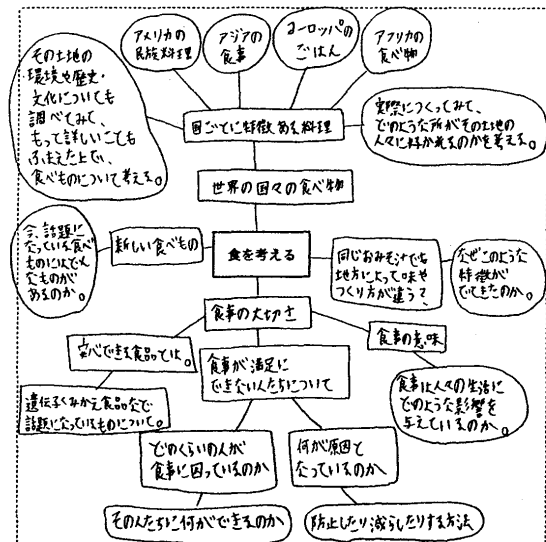
①大テーマ「食を考える」からイメージされることをとどんどん書き込んでいこう。



② ①をもとにして、あなたが興味のあること、やってみようことを書き出そう。

1. 食の歴史について。
主にどの国から来た食べ物か。
食の文化の歴史。
食の未来について。
食の安全について。

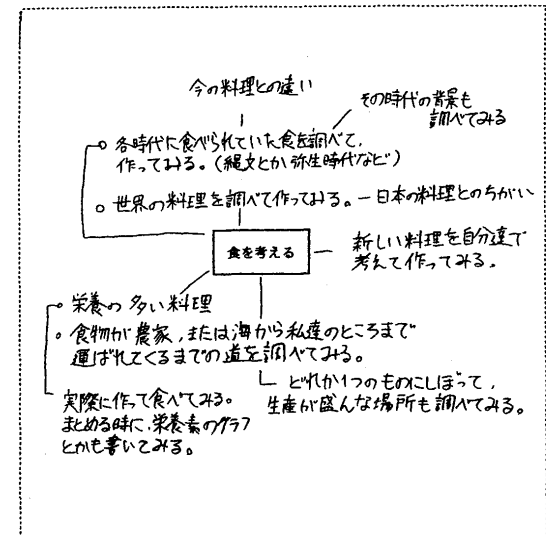
3年()組()番 名前()
①大テーマ「食を考える」からイメージされることをとどんどん書き込んでいこう。



② ①をもとにして、あなたが興味のあること、やってみようことを書き出そう。

1年生で世界の文化についてやったので、それをも学習に生かすために、世界の国々の伝統的な料理にポイントをおく。その土地の歴史なども調べて、その料理を実際に作ってみる。食べてみる。どのような所が人々に好まれていたのかを考える。また、2年生の学習に関連するように、食事を満足にできない人のために何かやってみようか考える。

①大テーマ「食を考える」からイメージされることをとどんどん書き込んでいこう。



② ①をもとにして、あなたが興味のあること、やってみようことを書き出そう。

食の文化の歴史の口入運はれるまでのルートを調べてみる。
(農家・農場・海から市場へ、市場から店へ)
最後にまとめ
昔に作られていた料理を実際に作って食べてみる。
(縄文時代や弥生時代など) 各時代の背景やその違いを調べてみる。

資料2 <ビデオ視聴後の生徒の感想>

2003 年度 第3学年 総合学習 2004.1.16 (金)

「一頭の牛が食卓を奪えた」のビデオを見て

- ・様々な食物は食物連鎖の上でつながっている。一頭の牛がBSEにかかれば、大勢の人々に影響を与えるし、穀物の生産量が減れば、牛肉の生産にも影響を与えるなど、様々なつながりが感じられた。地球上の食物、自然、すべてのものが「食」という生物たちの生きるための行いの上でつながっているのだと思った。(3M女子)
- ・豊かな国の都合だけで食いたい国の人々の主食を買い占めたりしてはいけないと思うけど、今の食生活が変わってしまうのも嫌だな、と思う。他国での主食を自国では動物の飼料にするというのは、他国の食生活をあまり理解していないからではないのか。各国の独特の料理については調べてみたい。(3M女子)
- ・家畜のためだけにトウモロコシを作るといいうのもなぜか悲しいような気がする。でも、牛肉がないと今は生きていけないような気がする。アメリカの立場が強いのは、このビデオで言っていたこともああると思う。他の国に頼らないで生きていくことは大変かもしれないけれど、その国にはその国にあった食文化があるので、肉ばかりでなく自国の「食」というものも考えた方がいいと思う。(3K男子)
- ・やわらかくておいしい牛肉を食べるために、世界の多くのトウモロコシなどの穀物飼料が使われていることは、なんだか少しおかしくて「食」の本来の意味を見失っているような気がした。おいしい牛肉をつくるために、世界中の力が動員されていて、つながっているんだと思ったが、私にはただ無駄にしているような気がしてならなかった。(3M女子)
- ・世界はアメリカの戦略のようになって動いている。ビデオでは「中国での牛肉の消費が高まれば世界的な食糧不足を引き起こしかねない」と言っていた。それでもアメリカは自国の輸出を伸ばすために牛肉を食べるようにしむけ、今では中国も多くの穀物を輸入するようになってしまっている。世界の食糧事情はいつか破綻するだろう。そしてその時、何の関係もない人々々がけを払うこととなるだろう。(3U女子)
- ・私達は今までのやわらかくて脂ののっている牛肉を育てるためにたくさんさんの穀物飼料を必要としていることは知らなかった。牛肉をつくるためにたくさんさんの穀物を使ってしまい、穀物が不足してしまったり、人間が食べられなくなり、と変な悪循環が起こってしまうのではないかと思った。(3M男子)
- ・私達が普段何気なくあたりまえに食べている牛、豚、鶏も、もとはといえれば命を持った大切な生物だったんだと改めて感じます。また、その生き物を食べるために何倍もの飼料を与えなくてはならず、人間が牛一匹を食べるのにその他のたくさんの命がうばわれているという現実を知ると、人間がなんかぜいたくな気がしました。「食」というのは、人々やこの地球上に暮らすものにとっても欠かせないものなので、食問題については豊かな国、貧しい国関係なく皆が考えていかなければいけません。(3M女子)
- ・人ごとではなく、一人一人が真剣に考える問題だと思っています。食料は無限にあるのではなく、限られた数しかないもので、考えた方がいいと思う。(3R男子)
- ・私は、普段スーパーなどで牛肉を買って普通に食べたいけど、牛はトウモロコシを食べ、そのトウモロコシは他の国では主食とされていたり、トウモロコシが生きていく上で必要なこともああるとわかった。自分たちが牛肉を食べたいからといって、他の国の食料を減らしてしまうのは良くないと思った。なので、どの国ともバランスよくできるよにすべきだと思う。(3R女子)

- ・工業化や経済成長が進むにつれ、先進工業国を中心として世界の「食」は豊かになってきている。しかし、一部の人のためのよりおいしく、より上質な食べ物を追求するためにお金や飼料、肥料など大量の物資が消費されていくことを忘れてはいけないと思う。より豊かになるという心が人間社会を支えてきたことは確かだが、そのために食いたい人々、弱い人々を犠牲にすることは考えものである。(3R女子)
- ・常に、日本やアメリカなどの先進国の食べ物を優先して、その食べ物をつくるために他の国の主食を奪ってしまっているのはよくないと思うし、食と世界の対立は密接に関係しているんだなあと思った。私たちは、食べ物に富んでいて、嫌いなものとかすぐに残してしまうので、少し制限するべきだと思う。(3R女子)
- ・おいしいものを求めると同時に、世界のどこかで食べ物に困っている人もいるのだと思うことに改めて気づいた。日本の穀物輸入も年々増えている。私たちは当たり前のように毎日肉を食べているが、それがどういう上になり立っているのかを、もう一度考えてみる必要がある。(3K女子)
- ・人々の食生活の変化によって牛をよりおいしく食べることに目覚め、今まで人間の食べ物であったトウモロコシを牛に食べさせ肥させている。それでなくても穀物不足なのに。もし、今、牛の食物を草に戻したらどうなるだろうか。満足する人は誰もいないだろう。人間は勝手である。より豊かにするために研究し、しかし結局人間が生きていくことを直させるのだから。(3K女子)
- ・ひとつの「食」について本当に色々な国が関わっているのびびくりした。「牛」一つとってみても、えさの問題やその輸出など一国だけでは成り立っていないのだと思う。日本のように特に輸出に頼っている国はこの形が少しでも崩れてしまったら大変なことになるのでは？だから中国も「自給」にこだわっているのではないだろうか。(3K女子)
- ・私がこれから食物を口にするとき、その食物が私達に届くまでの背景、生産者の苦悩を考えてかみしめたいと思う。牛一頭分の肉を食べることは、牛一頭が食べる飼料が消えていくということをするすっきり忘れてしまった。「食」と世界中の人々とのつながりはとても深いのだと改めて実感しました。(3K女子)
- ・私達は今まで穀物のことなどが減っていることも考えず、ただ牛肉などを食べたいときに食べてるだけであって、他のことは全然考えていませんでした。穀物は私達にとっても大切なものであるから、これからはそのことも考えながら食べていきたいと思ひました。穀物が減ると、それを食べている牛も減ってしまうので、バランスを考えて生きていきたいです。(3U女子)
- ・私は普段穀物飼料の問題など全然気にせず牛肉を食べていた。消費者である私達には何ができるのか考えてみたいと思う。牛肉をあまり食べないようにすることがよい解決方法なのだろうか？トウモロコシが足りなくなると世界に大きな影響を与える。そのことを考えると、早いうちに問題を解決しなければいけないと思う。(3U女子)
- ・牛肉などだけでなく、その他の食品も輸入ができなくなるような事態のために、輸入に頼りすぎているのではないと思った。また、その食品の管理などをしっかりしてほしい。「食」は人間にとってもとても重要な要素の一つなので、その分、管理、貿易などの作業をしつかりと行い、世界中の人々が互いに協力して生活を支えていけるとよいと思った。(3U男子)
- ・戦争や食糧不足の恐ろしさを知らない現代人にとって「食べること」は当たり前のことのように思われていますが、それは人間のみのことではなく様々な生き物の犠牲によって成り立っていることだと思ひました。私達が作物を育て、それを家畜などが食べて、家畜らを私達が食べる。私達は「食物連鎖」によって生きており、「食物連鎖」のため生きていけると言っても過言ではないかもしれません。(3U男子)

資料3 〈実行委員が検討した小テーマの内容〉

総合学習だより NO.1
1月23日総合学習 実行委員
実行委員長: 副実行委員長:

今回のテーマ『食を考える』

小テーマ

- ① 食文化: 日本各地・世界の国々の食生活。
- ② 現代人の食: 現代人の栄養バランスは大丈夫?
- ③ 食問題: 世界で起きている食に関する問題。

① 食文化 〈担当〉

日本各地や世界の国々の伝統料理や
特色のある料理について調べる。

例: 世界の国の食事・伝統的な食事・食の文化

② 現代人の食 〈担当〉

現代の人々が食べているお弁当や調理済みの
食品の栄養や特徴などを調べる。

例: コンビニ弁当の栄養価・冷凍食品・ワケメ

③ 食問題 〈担当〉

国際的に起こっている食に関する問題を取り上
げ、詳しく調べる。

例: 遺伝子組み換え食品・添加物・BSE・人工物

本日(1/23)の予定

各クラスで総合学習の説明
小テーマごとにわかれる・移動

① 食文化→梅組

② 現代人の食→菊組

③ 食問題→蘭組

調整…人数に偏りがあった場合移動
に協力してください。(抽選あり)

グループ決め★クラス・男女関係なし

計画を考える★7~8人ぐらい

中学校生活最後の総合学習です。
興味のあるテーマを選んで一生懸命取り
組みましょう。また、総合学習の最後
には全員参加の会食会を予定
しています。お楽しみに。



3. 学習指導計画と主な活動記録

12月～3月にかけて、総合カリキュラムの時間を中心に指導計画を考え、次のように実施した(表1参照)。なお、本校の第3学年は、3月は特別プログラムを組んで活動しており、今年度もその特別プログラムの中に総合学習のまとめを組み入れた。また、簡単な報告等は朝のミニ総カリ(15分)などを随時活用したり、実行委員会の話し合いは昼休みや放課後の時間を使った。

表1 〈指導計画(実施記録)〉

12月16日	ガイダンス (大テーマのイメージをふくらます) ①②
1月13日	ビデオ視聴 (世界の食糧事情についてビデオを見て考える) ③④
1月23日	小テーマ選択とグループ作り および取り組む内容の検討 ⑤⑥
1月27日	ビデオ視聴(飢餓と肥満に関するビデオを見て調べる内容を深める)とグループで取り組む内容や資料の検討 ⑦⑧
1月30日	グループごとに調べ学習 ⑨⑩
2月17日	グループごとに様々な活動 ⑪⑫
2月20日	同上 ⑬⑭
* 2月17日と20日の活動内容については、事前に話し合っておいた。	
2月27日	グループごとにまとめの準備 ⑮⑯
3月10日	グループごとにまとめの最終準備 ⑰
3月11日	「総合学習発表会と昼食会」…2～5時間目まで昼食時間も含める。⑱～㉒

上記とは別に、7月の校外学習(飯盒炊飯)としての総合学習に(12)時間

表2 〈各グループが取り組んだ内容一覧〉

	グループ名	取 り 組 ん だ 主 な 内 容
食 文 化	①食事屋烏合の衆	日本の食について（地方ごとの郷土料理，栄養バランス，日本食文化の時代における移り変わり）
	②魔王Vとその僕達	カニバリズム（場所，歴史，目的など）
	③おにぎり3キロ☆	食物と生活との関わり，世界の珍味，米の食べ方の違い，パスタの歴史
	④じゃくそん☆nine	フランス，メキシコ，タイ料理の文化，マナー，代表的な料理について
	⑤Innosent World	メキシコの伝統料理について（調理法，栄養バランス等）
	⑥Foodig ★ Nemo	インド，イタリア，中国などの伝統料理（主食，由来，気候との関係，食事方法，栄養バランス）
現 代 人 の 食	⑦こやま	ファーストフード店のメニューにおける栄養バランスや添加物などの成分を調べる。
	⑧いつものってかふつうの7人	ヘルシーなデザート（今流行のヘルシーデザート，コンビニのデザートチェック，バランスの良いデザート）
	⑨RYUJI	現代人の食の特徴を，コンビニを中心に人気やインタビュー，試食等で検証する。（弁当，菓子，飲み物）
	⑩ダマールのババシャツ	今，人気のデザートについて（年代別に，その栄養や秘密の味をさぐる。）
	⑪ぐるめ	ファミレス症候群（ファミレスの人気メニューの栄養，食べ残しを減らすための方法，メニューを考案して提案）
	⑫THECHICKENEST AND CHICKENS	コンビニの食品について（鳥インフルエンザ，BSEの影響）
	⑬蛇にピアス	現代の菓子の調査（菓子の栄養バランスなど）
食 問 題	⑭3 N(37)華丘舞生	食品添加物（種類，人体への影響，添加物の利点など）
	⑮ハッピー牛乳定価400yen	BSEと鳥インフルエンザの被害（過去の被害，被害地域，原因，人間に感染したときの症状，感染経路など）
	⑯Melissa	食品添加物について（種類，入っている食品，使う理由，身体に及ぼす影響など）
	⑰Why don't u eat Idensikumikae?	遺伝子組み換え食品について（種類，組み換え方法，メリットとデメリット，環境との関係など）
	⑱黒豚～米満隊～	BSEについて（内容，影響など）

4. 様々なスタイルを取り入れたグループ活動

(1) 調べ学習における文献資料の用意, および新聞記事検索の活用

これまでの総合学習で調べ学習を行ったときは、参考にする図書などの用意は生徒たちに任せていた。生徒たちは、図書室や公共の図書館から借りたり自宅の本を持ってきたりして調べていた。しかし、資料収集が十分であったとは必ずしもいえない。

そこで、第3学年の総合学習では、あらかじめ「食」に関する文献資料を実行委員の生徒と教師の方で調達しておき、それらを一括して活動場所に置いておくことにした。実行委員の生徒たちが図書室と家庭科準備室から、また担当教師が本校近くの小石川図書館から*、それぞれ「食」に関する図書を探し出したが、集めた図書の数は100冊以上にのぼる（返却時のことを考え、実行委員は文献リストも作成）。これらの図書をすべてワゴンに乗せて3年生の教室が並ぶ3階の廊下に置き、生徒たちが各自自由に利用できる環境をつくった。また、そこで必要な図書が見つからない生徒には、図書室で探すことを許可したり、各自が用意してくることを指示したりした。

* 小石川図書館で行っている「学校貸し出し」のサービスを利用した。事前にテーマなどを連絡しておく
と、関連する図書の書棚の場所を教えてくれたり図書を選び出しておいてくれる。また、借り出せる図書の冊数も一般貸し出しよりかなり多い上に、1ヶ月間続けて借りることが可能である。

一方、最近はやはりインターネットで情報を収集することも多い。幸い各教室に2台のコンピュータがあるほか、他の学年の活動と重ならなければコンピュータ室を3年生だけで使うこともできる。生徒たち自身、キーワード検索で目当ての情報が掲載されているHPを捜し出すことがだいぶ上手になってきた。さらに今年度は、司書教諭の計らいで、読売新聞の「スクールヨミダス」*の新聞記事検索を無料で利用させていただいた。この新聞記事検索を実際に活用した生徒の数はそれほど多くなかったが、そのような検索もあるという情報を生徒たち全員に伝えられたことは有意義であった。

* <http://www.yomiuri.co.jp/school>

(2) 外部へのインタビュー

表3は、2月20日のグループごとの活動内容をまとめたものである。様々な場所に出かけてインタビュー調査を実施したグループが多かったことがわかる。外部に出かけるグループに対しては、インタビュー内容はもちろんのこと、訪問先の場所、事前のコンタクトの有無などを確認した上で許可し、学校からの依頼の文書を持たせた。このようなことができたのも、第1学年の総合学習での「訪問学習」、第2学年の総合学習での「社会のためになる活動の実行」があったからこそである。今までの成果が、第3学年での総合学習における調査活動にも大いに生かされたといえるだろう。

表3 <2月20日のグループごとの活動内容一覧>

2003年度第3学年総合学習「食を考える」

2004.2.20 (金)

グループごとの今日のスケジュール

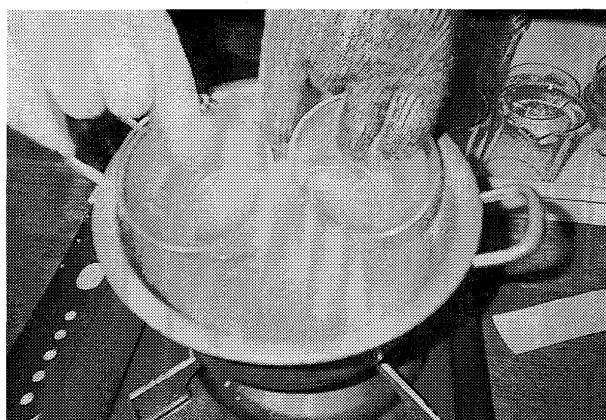
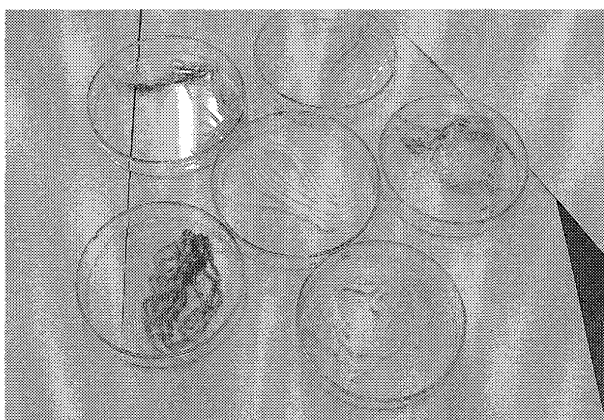
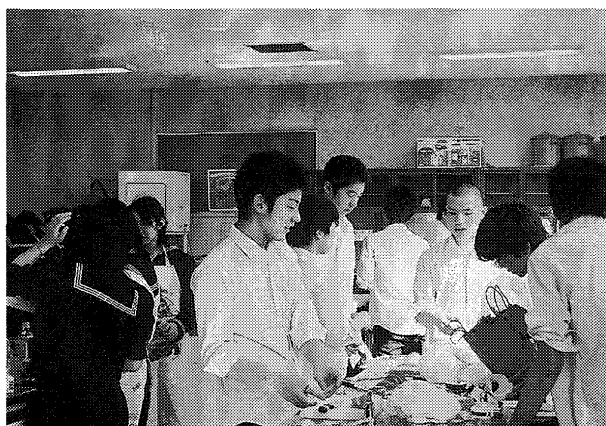
	グループ名	2/20 (金) 5・6限
①	食事屋烏合の衆	・調べ学習の続きと冊子の原稿準備。
②	魔王Vとその僕達	・資料集めはせず、今までの資料から冊子の内容を選別する。 ・担当者を決める。
③	おにぎり3キロ☆	・模造紙(2枚)にまとめる。
④	じゃくそん☆nine	・アンケートをまとめる。 ・フランス、メキシコ、タイ料理の文化、マナー、代表的な料理について調べ内容を深める。
⑤	Innosent World	・調理実習(ブリトー、キャサディア、タコス)
⑥	Foodig ★ Nemo	・調理実習(インドカレー)
⑦	こやま	・マクドナルド、モスバーガーなどに行ってインタビューを行う。
⑧	いつものってかふつうの7人	・オリジナルデザートを調理実習
⑨	RYUJI	・お菓子&飲み物グループはまとめの続きを行う。 ・お弁当グループは試食会を行い、比較研究をする。
⑩	ダマールのババシャツ	・マウカメドウズ(池袋店)にインタビューへ行く予定。また、パセラの方へは電話インタビューを行う。
⑪	ぐるめ	・17日のインタビュー結果をもとにアンケートを作成する。 ・提案メニューを考える。
⑫	THECHICKENEST ANDCHICKENS	・コンビニ(ローソン、セブンイレブン、ampm、ファミリーマート)へインタビューに行く。
⑬	蛇にピアス	・17日の調査で調べたカロリーについて、模造紙にまとめる。 (もう一つのインタビューは後日行いたい。)
⑭	3 N(37)華丘舞生	・技術室で実験する。(12:40~3:40) ・呼びかけのポスター、冊子にまとめる。
⑮	ハッピー牛乳定価400yen	・アンケートを作成する。 ・時間があれば、調べたことをまとめる作業に入る。
⑯	Melissa	・「らでいっしゅぼーや」という会社に、17日にまとめた質問をメールで送る。 ・調査、調べ学習を続ける。(工場見学は今のところしない予定)
⑰	Why don't u eat Idensikumikae?	・農林水産省へインタビューに行く。(1時30分頃学校を出発予定)
⑱	黒豚~米満隊~	・スーパー(スーパージャンボなど)で肉売り場の人にインタビュー。(2時10分~) ・残ったメンバーで調べ学習を続ける。 ・見学先と連絡を取って見学日と内容を決定する。

(3) 調理実習や着色料抽出実験

この学年の生徒は、既述の通り、食べるだけでなく、自分たちで調理することが大好きであり、また得意でもある。大テーマ「食を考える」を選定した理由の一つもそこにある。従って、自分たちが取り組むテーマに応じて調理実習を活動の中に組み入れるグループが複数出てきたことは、当然といえば当然であった(前ページの表3参照)。調理実習を行ったグループは、材料の準備から調理、ゴミ等の後始末まできっちりと、かつ喜々として取り組んでいたのが印象的だった。

また、食品添加物に関して調べることにしたグループは、着色料を抽出する実験に取り組んだ。抽出方法を書籍で調べたあと、実験対象となる菓子(日本製と外国製)を自分たちで購入して実験にのぞんだ。担任団の中に理科教諭もいたため、適切な助言も受けながら実験を進めることができた。

〈調理実習や実験のようす〉



5. 発表会と昼食会の企画・運営

第1学年と第2学年の総合学習では、ポスターセッションという形で学年報告会を持った。ポスターセッション方式は、限られた時間の中で20にも及ぶグループが発表できるということで、これまでの実行委員の生徒たちが考えて選んだものである。しかし、この方式では、全部のグループの発表を聞くことができなかった。

今年度の学年報告会に関して、教師側としては次の二点のことを考えていた。

①三年間の総合学習の最後でもあるので、全員にすべてのグループの発表を聞いてほしい。

②「食」をテーマにしているのだから、学年報告会の中にぜひ「昼食会」も組み込みたい。

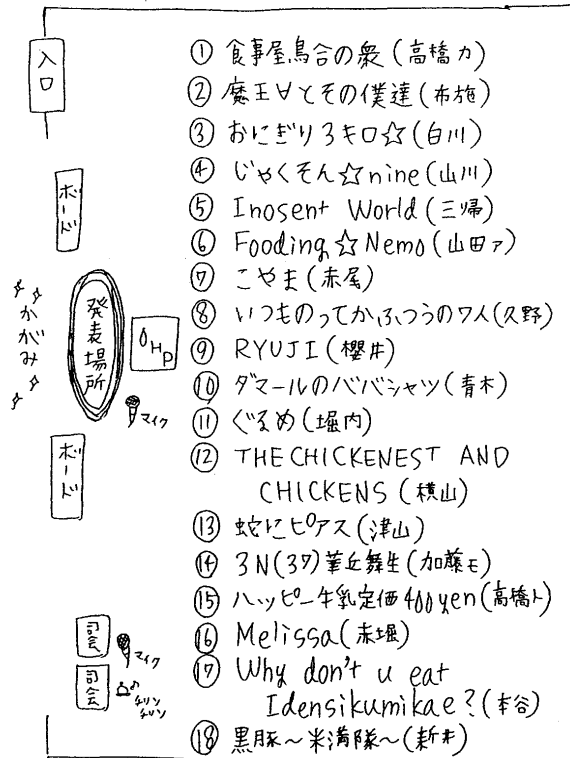
そこで、実行委員の生徒たちに、この教師側の二つの考えを話して学年報告会の内容を検討してもらった。その際、時間は2～5時間目まで（昼食時間も含めて）使えることも伝えた。実行委員会での話し合いの結果、「発表時間は各グループ3分間。」「発表の仕方は各グループに任せる。」「昼食会のメニューはおにぎりとジュース・お茶。その他に、調理実習を行ったグループには全員で試食する料理をつくってもらう。またお菓子について研究したグループが調べたお菓子もみんなで試食する。」「環境問題に配慮して、昼食会後のゴミの分別を徹底する。」といったことが決まった。次の資料4は、「総合学習発表会と昼食会のスケジュール」である。また、資料5～7は、発表会のために実行委員の生徒が作成して配布したプリントである。

資料4 〈総合学習発表会と昼食会のスケジュール〉

時 程	内 容
9:50～10:35	準備（各教室、武道場のセッティングや調理の時間）
10:50～12:10	発表会（武道場で、各グループ3分間で発表） *終わり次第、各教室へもどる。
12:20～12:50	昼食会（各教室で、おにぎり2個、調理グループがつくってくれた料理、ジュース、お茶などを楽しく食べる。）
12:55～13:20	昼休み
13:20～14:05	あとかたづけとまとめ（片付けたあと、まとめ用紙に記入） *ゴミのことを意識して、きちんと分別してかたづける。 *他の学年は授業中なので、机等を静かにもとにもどす。

資料5 〈武道場（発表会）での並び方〉

☆武道場での並び方☆



2003年度 第3学年総合学習「食を考える」

2004.3.11 (金)

<2限目の準備の役割分担について> 9:50~10:35

①試食用料理の調理...調理室で調理

カレー : Fooding ☆ NEMO
 スパゲティ : おにぎり3キロ☆
 ピザ : くまめ
 テイトーユ : じゃくそん☆nine

②武道場関係

A) 掲示ボード (15枚) を武道場へ運ぶ。

Innocent World
 THE CHICKENEST AND CHICKENS
 ・掲示ボードは東階段の屋上へ上がる踊り場にある。

B) 放送器具、OHP、ベル、2年の総合冊子を武道場へ運ぶ。
 食事屋「鳥合の衆」

C) グループごとに写真撮影

仕事が終わったグループから順番に撮影。
 調理のグループは、発表会後になるかもしれません。

③教室関係

・机、いすを配置図 (別紙) に従ってならべる。

・机の上に、紙コップ等を分ける。

3M教室・・・魔王Aとその僕たち

小山

3R教室・・・さんあーのいつものってかふつうの7人 (久野)

黒豚〜米満隊〜

ダマールのババジャツ

3K教室・・・RYUJI

蛇にピアス

ハッピー牛乳 定価 400yen

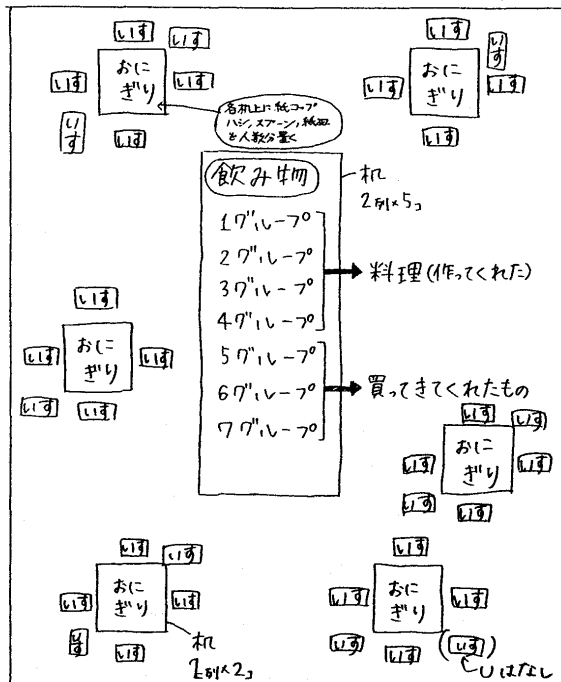
3J教室・・・3N(37)華丘舞生

Melissa

Why don't u eat Tenkabutu?

★各グループとも準備が終わったら武道場へ行き、グループごとに写真撮影です。

資料6 〈昼食会用のセッティングについて〉

総合学習「食を考える」 昼食会用の教室内の机・いすの配置図
2004.3.11 (金)

※ いす、机は必要な分を使って下さい。いすはいくつでも良いです。
 また、好きな人と座って良いです。

資料7 〈ゴミの分別〉

<ゴミの分別>

紙コップ
 わりばし
 紙皿
 ⇒ 可燃ゴミ

おにぎりの包み
 スプーン (プラスチック)
 ⇒ 不燃ゴミ

ペットボトル
 1. きれいに洗う
 2. ラベルをはがす → ラベルは 不燃ゴミに
 3. つぶす

6. 総合学習の評価

(1) 生徒による自己評価、相互評価

生徒自身による自己評価という、最後の報告会（発表会）のまとめ用紙や冊子の原稿に「感想」「反省」の形で記述させる場合が多い。すべての活動を終えたという安堵感や発表や冊子の内容の出来不出来が反映されるためか、生徒たちはかなり自由に率直な感想を記入するので、総合学習に対する各生徒の思いや達成感を知ることができる。

また、他のグループの報告や発表に対する相互評価の項目も付け加えることは、自分たちのグループの活動を再評価するにつながるといえる。例えば、今年度の生徒たちの中には次のようなコメントがあった。

- ・模造紙もうまくまとめられたと思うし、調理実習もうまくできた。アンケートやインタビューとかもしたら、もっと良いものにできたと思う。
- ・ほんとにくわしく調べている（インタビュー、実験など）グループがいくつかあって、もっと調べれば良かったなあと思いました。でも、活動（特に外での試食会）は充実していたし、何より楽しかったので良かったです。
- ・みんな協力して少ない時間を有効活用していたのに、自分たちは言い争っていて進まず、最後になって大変になったことが他のグループと違っている点。
- ・私たちのグループはお菓子について調べたので、BSE や鳥インフルエンザについては、他のグループの発表を聞いて、良い勉強になりました。今、私たちの口に合ったおいしい物が増えてきている中、健康についても考えなくてはならないとわかりました。

確かに最後に評価を位置づける意味はあるのだが、自己評価もしくは相互評価したことをぜひ次の活動に生かしたいものである。その意味では、活動の途中で随時自分たちの活動を評価する機会を設定することも大切であろう。

今年度の総合学習では、最初に計画立てたことを途中で何度も見直す機会を設定した。そうすることで、実際の自分たちの活動状況に合わせて活動内容を変更することができるようにしたのである。このような見直しや計画の立て直しの作業も、一つの自己評価の作業といえるのではないだろうか。

(2) 教師による評価

この3年間の総合学習では、いずれも約20個のグループが結成されて、それぞれの課題に取り組んだ。それらのグループの活動内容についての具体的なチェックは、実行委員の生徒たちが主になって行った。教師は担任団が中心となって、4～5のグループを受け持ち、それぞれの活動を見守るほか、助言などの支援や外に出かける場合の引率なども行った。

教師の評価については、グループを担当した教師が基本的に行う形式を取った。あらかじめ担任団で設定した評価の観点は、「関心・意欲・態度」「協力性」「資料活用、表現力」「テーマや課題の理解」等である。受け持ったグループの個々の生徒たちについて、これらの観点

に照らしながらコメントを作成し、最終的には通知票に記入して生徒たちに返した。

7. 三年間の総合学習を終えて

次の三つのことは、第一学年での総合学習ガイダンスで生徒たちに伝えたことである。

- ① 総合学習では、いろいろな教科を総合させた学習ができる。
- ② 総合学習では、いろいろな教科の枠組みにこだわらない学習ができる。
- ③ 総合学習では、自分たち（生徒）自身が決めたテーマ（課題）で学習ができる。

三年間の総合学習を終えた今、一番強く意識されることは、③の「自分たち自身が決めたテーマで学習する」ことの意義深さである。2年生、3年生と総合学習を続ける際にも、生徒たちが最も時間をかけて考えた部分であり、総合学習の楽しさを根本から支えていたものは、自分たちで決めたテーマ（課題）に取り組んでいるという意識だったといえる。もう一回総合学習ができるとしたら、ぜひ大テーマから生徒たちに考えさせ、決めさせたい。

また、この三年間の総合学習で印象深いのが、グループ名のユニークさである。一見ふざけて付けているように見えたグループ名でも、ちゃんとテーマを意識していたり、グループの仲間関係をユーモラスに表していたり、どこからそんなネーミングのアイデアが浮かんでくるのだろうという名前ばかりであった。これらのグループ名も、個人学習ではなくグループで行う協同学習としての総合学習ならではのものであった。

さらに、この総合学習を通じて、生徒たちの活動の範囲が大きく広がったことは大きな成果である。特に、第二学年で「実際に自分たちにできることを考えるだけでなく実行する」という実践は、生徒たちの自信や行動力を向上させたといえる。このような学びの場を提供することも、総合学習の大きな役割であろう。

最後に、評価については、前年度の課題がほぼそのまま残っている。第2学年の総合学習を終えたとき、今後の課題として「総合学習を通してどんな力を生徒たちに身につけさせたいのか、どんな能力が培われるのかを、実際の総合学習の内容に応じて具体的に検討し、実践後にそれらの力がどの程度達成されたのかを判断する評価方法を構築していく」ことを掲げた。総合学習でどんな力をつけさせたいかに関しては、本稿の冒頭に掲げた「総合学習でめざしたこと」の中に整理できたが、しかし、それらの力がどの程度達成されたのかを判断する評価方法や具体的な評価基準はまだ検討途中である。これまでの三年間の総合学習の実践を土台にして、引き続き検討課題としたい。

（文責 佐々木善子）

【夏の校外学習について】

(1) 校外学習実施に至る経緯と授業の目的

3年次の総合学習「食を考える」はもっぱら後期におこなったが、それに先がけて夏に総合

学習の一環として、奥多摩の「氷川キャンプ場」で校外学習をおこなった。

この学年の生徒は調理（＝自分たちで作って食べる）に対する関心が高く、2年次の林間学校の時も、宿舎付属のキャンプ場という不便な環境にもかかわらず、家庭科の支援を得て実に凝ったメニューの調理を成功させていた。そこで「食」をテーマにした総合学習のウォームアップとして、野外調理を中心とした日帰り校外学習を教師側で計画した。

授業の目的は「自然に触れながら、仲間と協力して調理を中心とした活動をおこなう」「限りある食材を無駄なく使う」の2点である。

(2) 事前準備と配当時間

校外学習実行委員として、クラスを問わず学年で8名前後を募ったところ、男子3名、女子11名が立候補し、その14名が放課後の時間を使って企画を立てるなどの事前準備をし、担当クラスの指揮もおこなった。学年全員の準備には、「メニュー決め」に総合カリキュラム枠の2時間を使い、その後の調整等には(月)(金)の朝の時間や放課後の時間を活用した。

班編制は、その時期のクラスの班をそのまま生かし、各班6～7名で計20班編制とした。

6月20日 実行委員立候補受付〆切

6月23日 第1回実行委員会（放課後）※第2回以降も順次おこなう。

7月1日 メニュー決め、調理用具の希望調査（総合カリキュラム2h）

実行委員は、企画・運営のほか、当日のルール原案作成や、しおり作成、現地での食材や調理道具の分配、各班長の指揮などをおこなった。

また、「氷川キャンプ場」は川原の石でかまどを作るところから始めなければならないため、ボーイスカウト経験のある実行委員が中心となって「かまどの作り方」「火の起こし方」をしおりに掲載したり、現地で各班を巡回して指導するなどした。

調理道具はキャンプ場で借り、食材の肉・野菜・果物は最寄りのスーパーマーケットに事前に注文した。一括して注文するには不向きな細かな材料や、キャンプ場にはない調理道具は各班で持ち寄った。

(3) 当日の様子

朝7:30に高田馬場駅前ロータリーに集合し、西武新宿線とJR青梅線乗り継いで、高田馬場駅（8:03）～奥多摩駅（10:07）間を移動した。「氷川キャンプ場」での滞在時間は正味4時間（10:30～14:40）で、帰りの電車は15:11発（17:20着）、という時程のもとに行動した。

第2学年の林間学校での野外調理は、屋根つきのかまどや調理場が用意されており、また宿舎や家庭科の協力も得られたため、かなり凝ったメニューだったが、今回は本格的な野外調理だということと、「限りある食材を無駄なく使う」という目的もあったため、生徒の食材の注文の仕方にも、教員側がかなり手を入れた。具体的には、他の班に比して贅沢すぎるメニューは他のものに変えさせたり、無駄が出そうな分量の食材は、個数や量を考え直させたりした。各

班のメニューは次の通りである。

	主 食	副 食	果 物
松1班	白ごはん	焼き肉	フルーツポンチ
2	焼きそば	サイコロステーキ	ゼリーのようなもの
3	焼きそば	肉巻き、サラダ、焼きはんぺん	梨、ぶどう
4	おこのみ焼	サラダ	柑橘系フルーツ
5	ハンバーガー	ポテト	フルーツ
蘭1班	カレーライス	サラダ	フルーツポンチ
2	スパゲッティー	ポテトパイ、ポトフ	タピオカ
3	ライスバーガー	マカロニサラダ、じゃがバター、スープ	フルーツクレープ
4	おこのみ焼き	おこのみ焼き	白玉
5	ペペロンチーノ	焼き肉サラダ	杏仁豆腐、ゼリー
菊1班	焼きそば	豆腐サラダ	フルーツポンチ
2	二味スパゲッティー	ミネストローネスープ	クレープ
3	焼きうどん	しゃぶしゃぶ	フルーツポンチ
4	カレー炒飯	コンソメスープ、イカ焼き	フルーツポンチ
5	*****	*****	*****
梅1班	冷製スパゲッティー	スープ、サラダ	フルーツポンチ
2	ナポリタン	ミネストローネスープ、焼きじゃが	焼きリンゴ、マシュマロ
3	焼きそば	バーベキュー	フルーツポンチ、スイカ
4	白ごはん	焼き肉	スイカ
5	ライスサンド	スープ、サラダ	フルーツポンチ

豊かな時代に育った彼らにとっては、このメニューでも「簡単・質素」なものらしい。しかし、野外という環境と、事前に計画した通りの過不足ない量の食材を使つての調理は、なかなか難しかったらしく、地面に落としてしまったり作り方を間違えたりして、思い描いていた完成品が口に入らなかった班もけっこうあったようだ。「火を起こす段階から一致協力しなくてはその日の昼食にありつけない」という状況は、生徒のグループ活動における相互作用をより濃いものにするということを、我々は前年度および今回の野外調理の場面で実感した。

また、後かたづけも、「時間内に終わらなければ帰りの電車に間に合わない」という枷があるため、宿泊しながらのんびり調理が楽しめる環境とは違い、見通しを持った動きや連携プレーが要求される。実際には、多くの班がのんびりしすぎていたために集合が遅れ、駅まで慌てて移動する結果になった。帰りの電車ではみな熟睡しており、広い川原で嬉々として活動していたが、かなりハードな1日だったことがうかがえた。

(3) 成果と課題

学校という場での活動は、えてして教育的配慮が行き届きすぎていて、実生活の現実味を欠いていることが多いが、基本的欲求の1つである食欲が大きく絡んだ活動は、生徒を思いのほか真剣に且つ本気にさせるようである。日頃は重大に思えることも「無事に食べられるか否か」の瀬戸際にあつては、ほとんどが些細な問題になってしまうようである。特にこの学年の生徒は、時間も空間も資金面も際限のない贅沢な環境を好むようなところがあつて、教師側は3年間を通じて、様々な面で「限られた条件内で考え、行動する」ことが少しでもできるように指導してきた。そう考えると、この校外学習は、「作って食べる」ことの好きな彼らにとっては、

楽しめてかつ学ぶところの大きい活動だったと言える。

欲を言えば、教師側が用意した必要最低限の食材のみを使って工夫して調理するという方法をとれば、もっとサバイバルな経験ができただろうと思う。しかし生徒の中にはそういう計画を面白がる子もいるだろうが、満足に食べられないことを嫌がる子もいることが予想され、生徒の合意を得るために必要な話し合いの時間の確保が難しかったので、メニューにおいては今回は少々妥協した活動となった。

(文責 西平美保)